

地方創生★政策アイデアコンテスト 2023

つべつギルド

-世代間交流を促進する
お悩み解決プラットフォーム-

北海道大学 学生団体HALCC

網敷千時・小田晏大

亀井宏之介・北田翔太郎

松田涼花

目次

導入

1. 津別町の概況
2. なぜ「世代間交流」なのか

現状

3. 津別町の世代間交流の現状
4. 津別町の理想

課題分析

5. 津別町の世代間交流の課題
6. 課題の原因分析

政策提案

7. 政策提案
8. 期待される効果

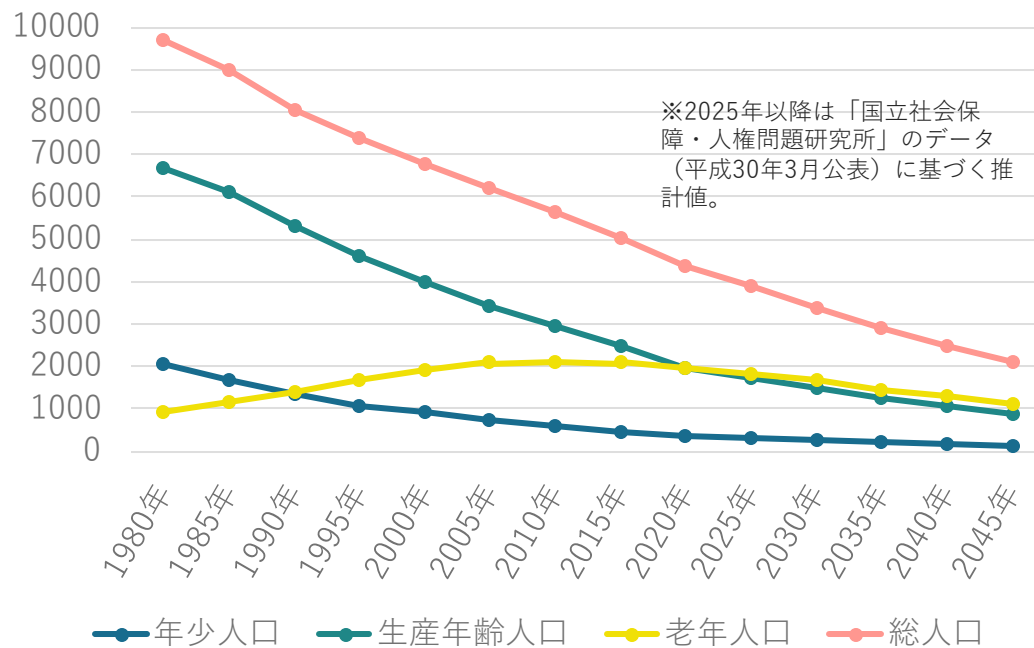
全体の概要

高齢化が進む津別町において
子供と高齢者の交流を促進し
生活充実度を高めることを目指す

1. 津別町の概況



津別町の人口推移



【出典】 RESAS 人口推移 北海道津別町 を基に作成

- 北海道東部に位置する人口約4000人の町
- 札幌から車で約7時間
- 町の面積の約86%を森林が占め、林業が盛ん
- 他の地方自治体同様、少子高齢化による人口減少が進み高齢社会への対策が要される

2. なぜ「世代間交流」なのか

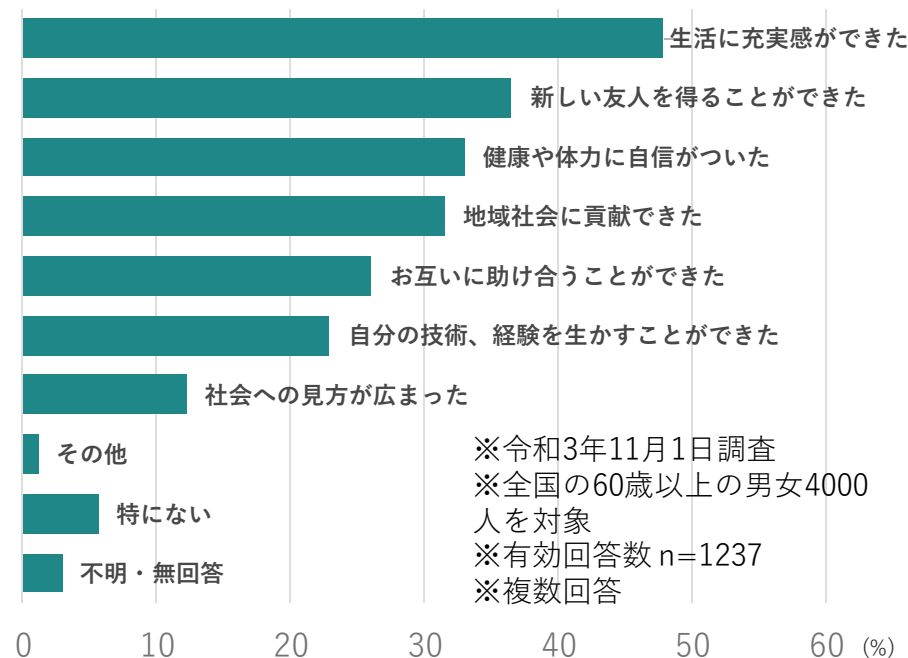
若年層と高年層において世代内交流ならびに世代間交流が良好な精神的健康と関連し、両世代と交流している者はさらに精神的健康が良好であることが示唆された。（根本・倉岡ら（2018）p.719）

高齢者と小中学生…（中略）…両世代間のコミュニケーションと仲間意識による連帯を中心とした相互交流により各世代に意味ある居場所となり、特に高齢者の孤立を防ぎ、心の健康に良い効果があることが示唆された。（亀井・糸井ら（2010）p.16）

世代間交流プログラムはwell-beingの向上と地域づくりに有用な方法であることが示唆された。（糸井・亀井ら（2012）p.33）

幼児にとって高齢者と関わることは、非常に肯定的に受け止められており、高齢者との日常的な交流は、他者への思いやり、コミュニケーションスキルの発達に寄与していることが示唆された。また、高齢者にとっても幼児との交流は楽しみとなっていることが観察により明らかとなった。（上村・岡花ら（2007）p.68）

社会活動に参加して良かったと思うこと



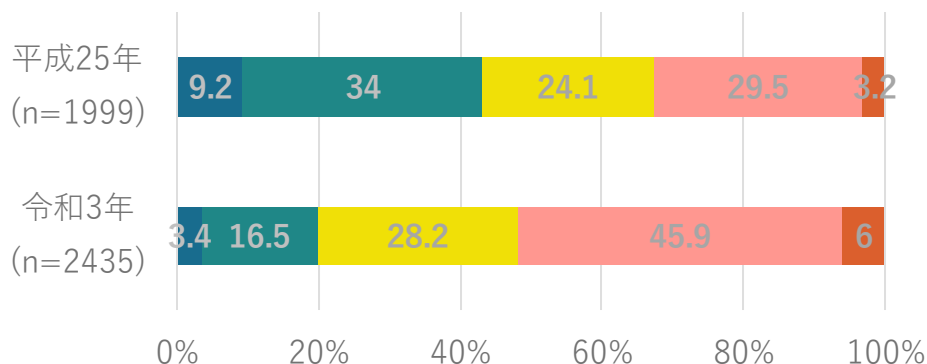
※令和3年11月1日調査
※全国の60歳以上の男女4000人を対象
※有効回答数 n=1237
※複数回答

【出典】内閣府（2021）p.80を基に作成

- 複数の先行研究から、世代間交流は高齢者・子どもの双方に対して、精神面に良い影響を与えることが明らかにされている（左図）
- 社会活動に参加することにより「生活充実度」「友人関係」「健康への自信」などが向上する（右図）
- したがって、世代間交流は高齢者・子どもの双方にとって生活充実度を向上させる重要な要因の一つである。
- 市民の生活充実度が高いことは、地域の内在的な魅力になりうる。

3. 全国と津別町の世代間交流の現状

若い世代との交流の機会への参加状況

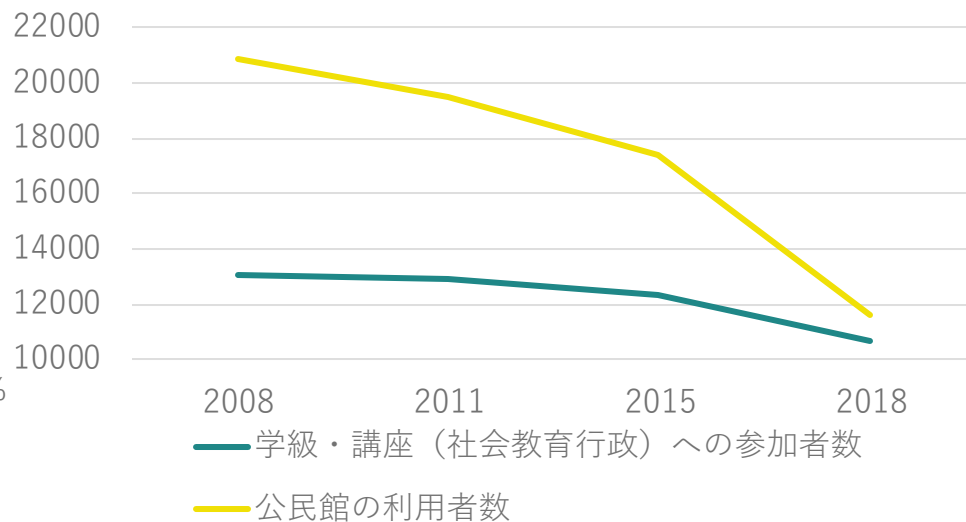


- 積極的に参加している
- できるかぎり参加している
- あまり参加していない
- 全く参加していない
- 不明・無回答

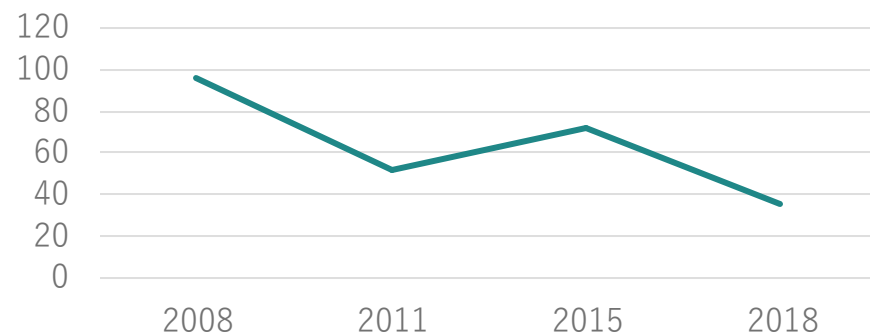
※令和3年11月1日調査
 ※全国の60歳以上の男女4000人を対象
 ※複数回答

【出典】内閣府（2021）p.108を基に作成

社会教育施設・講座利用状況



学級・講座（生活体験・異年齢交流）への参加者数



【出典】RESAS まちづくりマップ 北海道津別町 を基に作成

- 全国的に高齢者による若い世代との交流の機会への参加は減少している（上図）
- 社会教育講座への参加者数や公民館の利用者数の推移から津別町では人が交流する機会自体が減少していると考えられる（右図：上）
- 津別町でも世代間交流の参加者が減少傾向にある（右図：下）

4. 津別町理想

2020年に発表された『津別町第6次総合計画』によると、津別町では10年後のめざす姿として世代間交流、異年齢交流が活発に行われている状態を掲げている

施策 1-3 いきいきと学び健康的で心豊かな人生を送るための生涯学習・スポーツの推進

生涯学習・スポーツの推進

10年後のめざす姿

- 誰もが、生涯にわたりいきいきと学び、活動しながら、暮らしていける環境が整っています。
- 年代に応じた多様なスポーツ機会が確保され、年間を通じたスポーツ、文化事業（夢を与える事業）が展開されています。
- 町民ニーズに応じた多彩な生涯学習、社会教育メニューが充実しています。また、町外からの来訪者に対しても提供され、交流人口・関係人口の拡大、外貨獲得、移住促進に寄与しています。
- **世代間交流、異年齢交流が活発に行われています。**
- 若者の拠点（たまり場、しゃべり場）が確保されています。
- 使いやすく行きやすい図書館があり、誰もが勉学・情報収集に関心を持ち読書を楽しみ、本に親しむまちとなっています。
- 家庭教育を通じた「親学び」、「子育て学び」による親子成長機会が確保されています。

施策 1-4 まちづくり・地域づくりに参画する地域人材を育成する教育の推進

まちづくり教育の推進

10年後のめざす姿

- まちづくり活動を活発に行う人（活動人口）の比率が高まり、まちづくりに自主的に楽しんで参加する人が増えています。横の連携が強化されています。
- **世代間の交流が活発に行われています。**
- まちづくりを応援、協力、連携を促進する気運がより醸成されています。
- まちづくり活動を担うメンバーの新陳代謝が進んでいます。
- 胸を張って「津別を自慢」できる大人が増え、その言動を子どもが見聞して伝承されています。
- 「ウエルカムつべつ」の土壌が醸成され、多くの人々が来町し、出会いが繰り返される町となっています（関係人口増加）。

【出典】津別町（2020）p.64,68を一部改変

5. 津別町の世代間交流の課題 - 現在の取り組み -

子ども × 高齢者

ボランティアサークル ひまわり

町内の高校生が中心となり、児童や高齢者との交流を行う

※ただし、コロナ禍により**2020年から高齢者と交流する取組を中止**している
内容) ケアハウス訪問交流、チャリティバザー、こども園レクリエーション、クリスマスパーティー



【画像出典】津別町 (2023c)

青年 × 子ども/高齢者

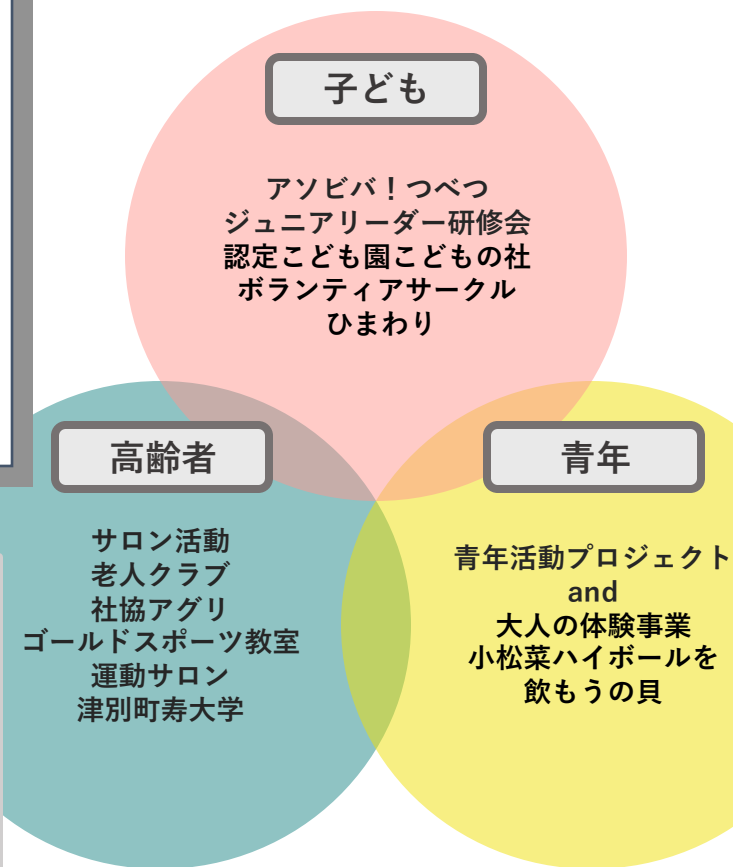
青年活動プロジェクトand

町内に在住・勤務をしている青年が中心となり、子どもや高齢者との交流を行う

内容) 内部交流会、異業種交流会、福祉施設・家庭への出張サンタ、出張節分オニ



- 津別町では世代内交流を促進する取り組みが行われている（右図）
- 世代間の交流を促進する団体には『ひまわり』と『and』があるが、コロナ禍の影響もあり、子どもと高齢者間の交流を促進することを目的としている団体はほぼ無い（上図）
- 上記団体が行っている世代間交流の取り組みは企画の形式が一般的であり日常的な取り組みとして行っている団体は現状見当たらない



【出典】津別町(2023a), 津別町(2023b), 津別町(2023c)を基に作成

5. 津別町の世代間交流の課題

理想

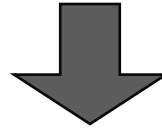
- ・ 10年後のめざす姿として、「世代間交流・異年齢交流が活発に行われている町」を掲げている

現状

- ・ 人が交流する機会自体が減少
- ・ 特に世代間交流が減少傾向

現在の取組

- ・ 子どもと高齢者間の交流を目的とする団体はほぼ無い
- ・ 世代間交流を日常的な取り組みとして行っている団体は現状見当たらない



世代間交流、特に「子どもと高齢者」の交流を促進することが重要
日常的に世代間交流が発生するような取り組みが必要

小括

生活充実度向上のため、世代間交流は重要であり、津別町も目標として掲げている
しかし、津別町ではその交流が十分に行われているとは言えない状況にある
次頁では全国の資料より世代間の交流が行われていない原因の分析を行う

6. 課題の原因分析

世代間の交流を促進するために必要だと思うこと

機会の問題

交流機会の設定が必要

個人の問題

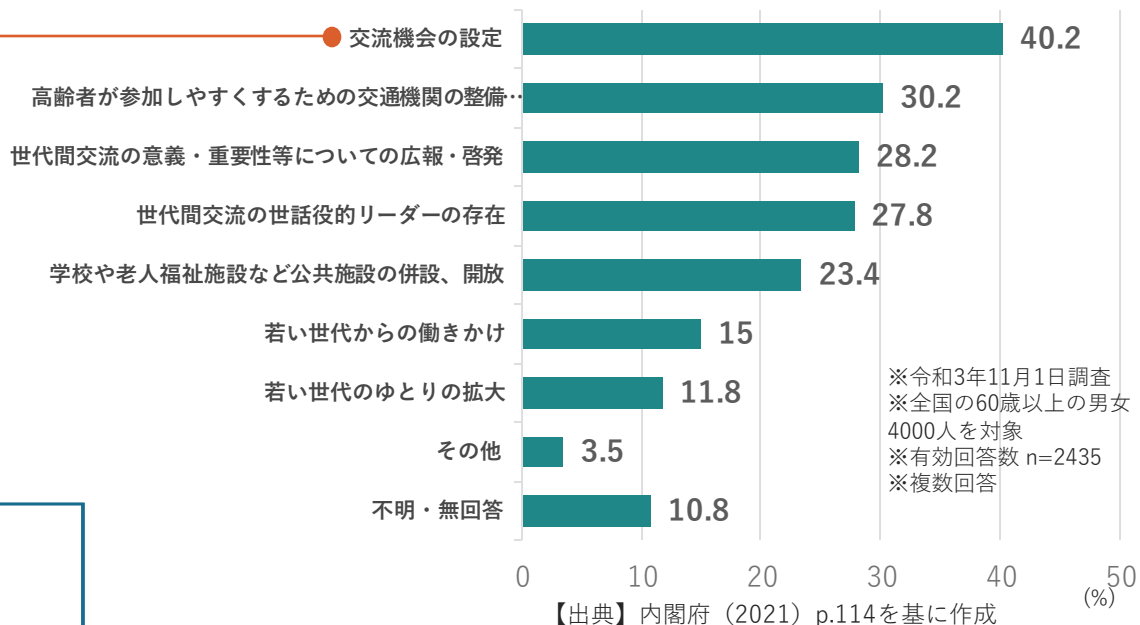
個人の困り事をコンテンツに

人間関係の問題

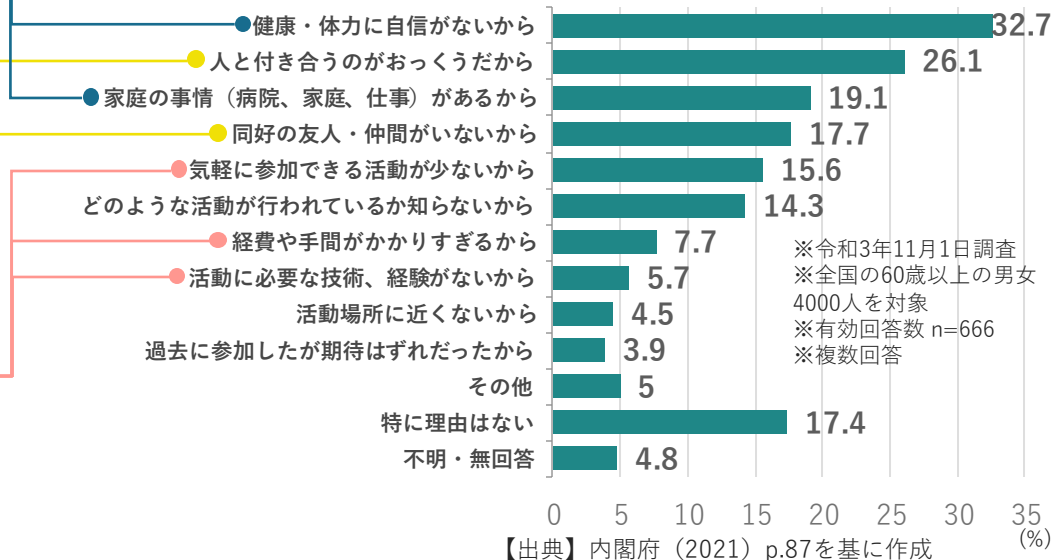
人間関係がオープンな場を

手軽さの問題

いつでも誰でも利用できる気軽さ



社会活動に参加したいと思わない理由



7. 政策提案

＜つべつギルドの創設＞

子ども/高齢者が「困り事＝クエスト」を解決しあうプラットフォーム

「困り事＝クエスト」を依頼したり解決したりすることでポイントが付与され、取得したポイントのランキングに応じて報酬が獲得できる

Point1

交流機会の設定



クエストの挑戦、すなわち世代間交流

Point2

個人の困り事を
コンテンツに



「困り事＝クエスト」の解決をコンテンツに

Point3

人間関係が
オープンな場を



誰でも気軽にクエスト依頼・クエスト解決
ギルドは人間関係のクッション材に

Point4

いつでも誰でも
利用できる気軽さ



掲示板をみて手軽にクエストに挑戦

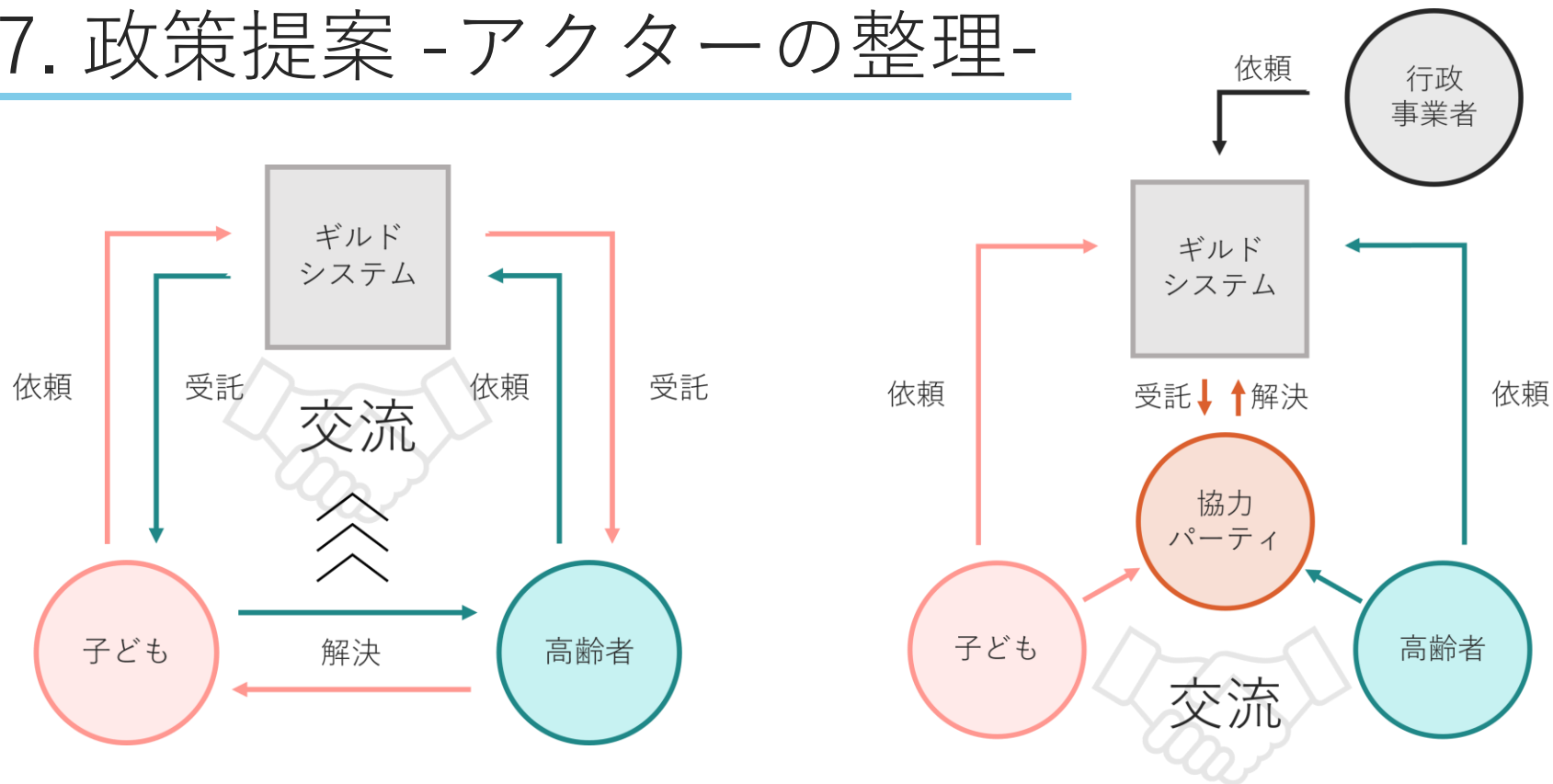
Point5

交流参加への
インセンティブ



クエスト依頼者・解決者両者にポイントを付与
世代間交流をたくさん生み出すことにインセンティブを

7. 政策提案 - アクターの整理 -



子どもが困り事を依頼→高齢者が受諾・解決
高齢者が困り事を依頼→子どもが受諾・解決

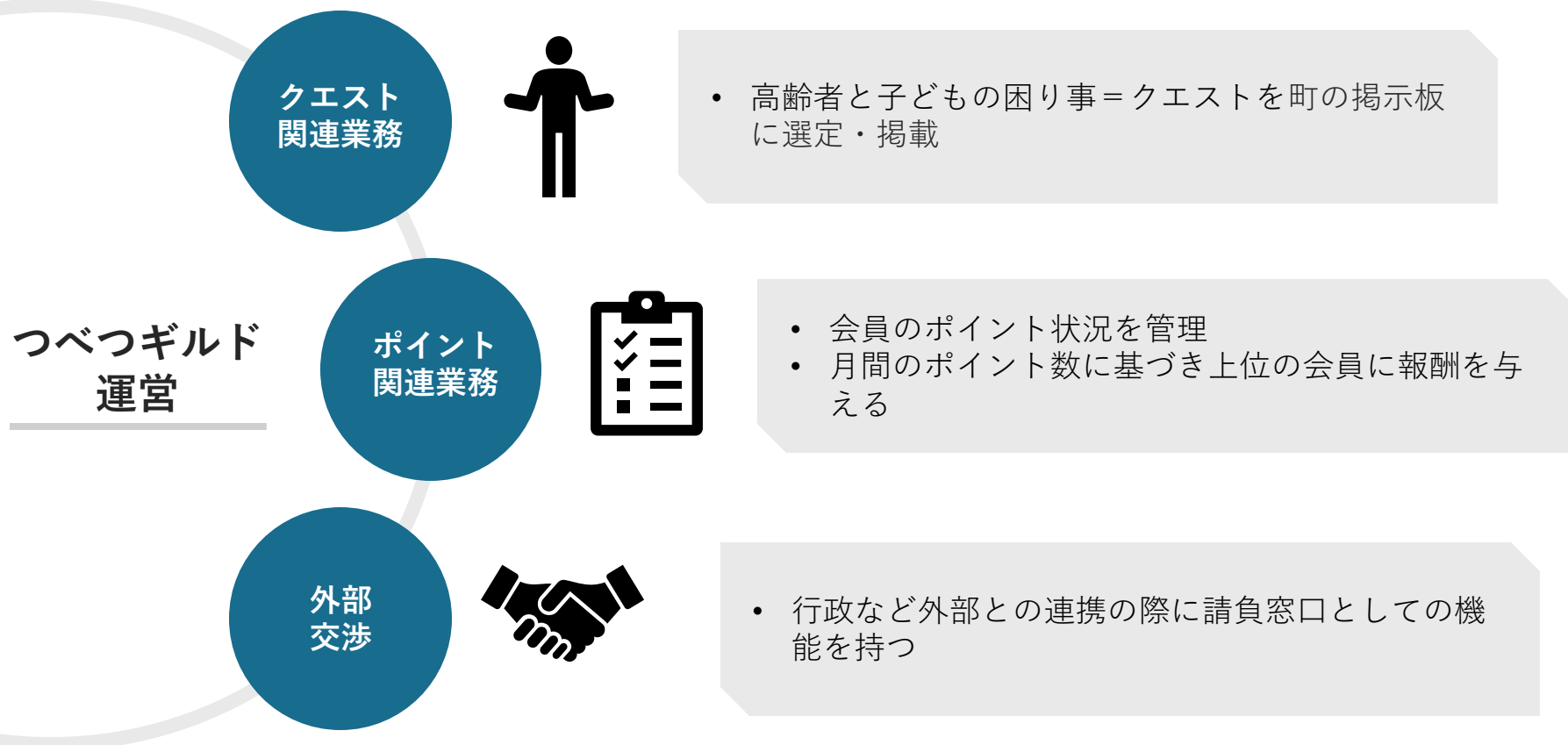
子ども、高齢者、外部（行政・事業者）が困り事を依頼
→子どもと高齢者が協力パーティを結成して受諾・解決

世代間交流が
発生

7. 政策提案 - つべつギルドの運営 -

< つべつギルドの運営 >

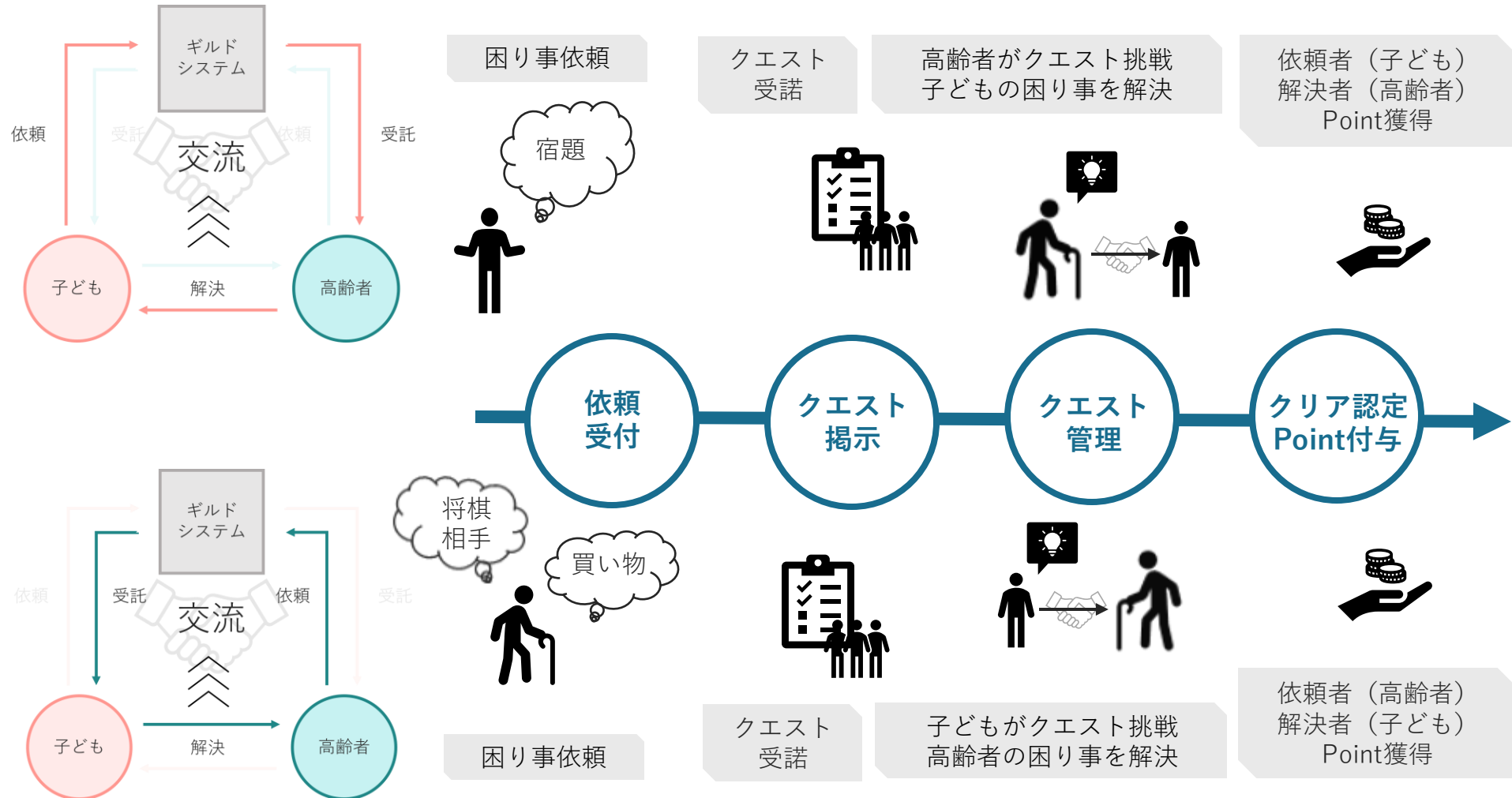
公民館の一室を用いてスタッフが常駐。困りごと＝クエストを募集し、掲示板にて告知する。
ポイントや報酬をマネジメントし、子どもや高齢者の参加インセンティブを維持させる



7. 政策提案

－ つべつギルドを実際に利用してみたときの具体例3つ －

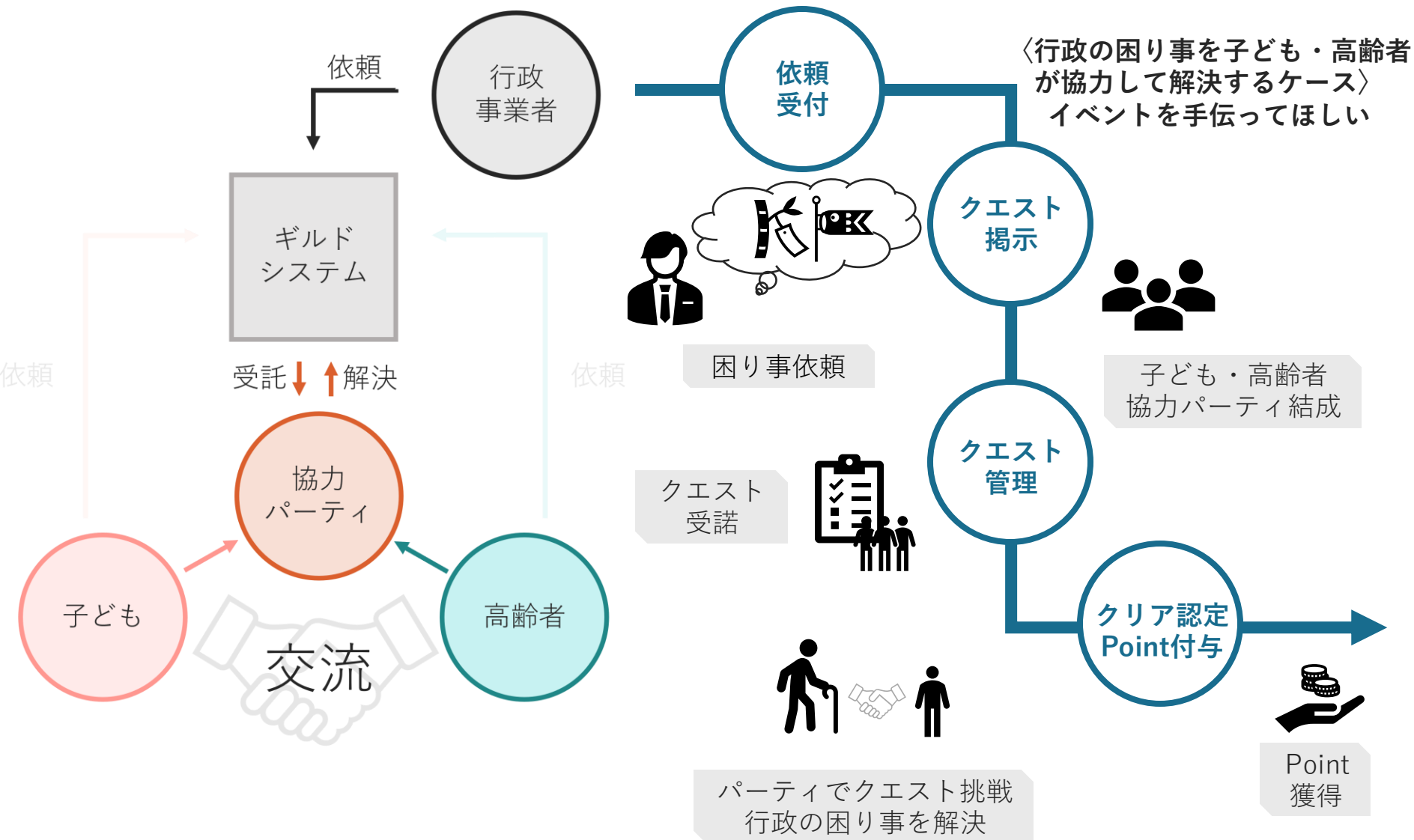
〈子どもの困り事を高齢者が解決するケース〉宿題をみてくれる人がいない



〈高齢者の困り事を子どもが解決するケース〉将棋の相手がいない、買い物を頼みたい

7. 政策提案

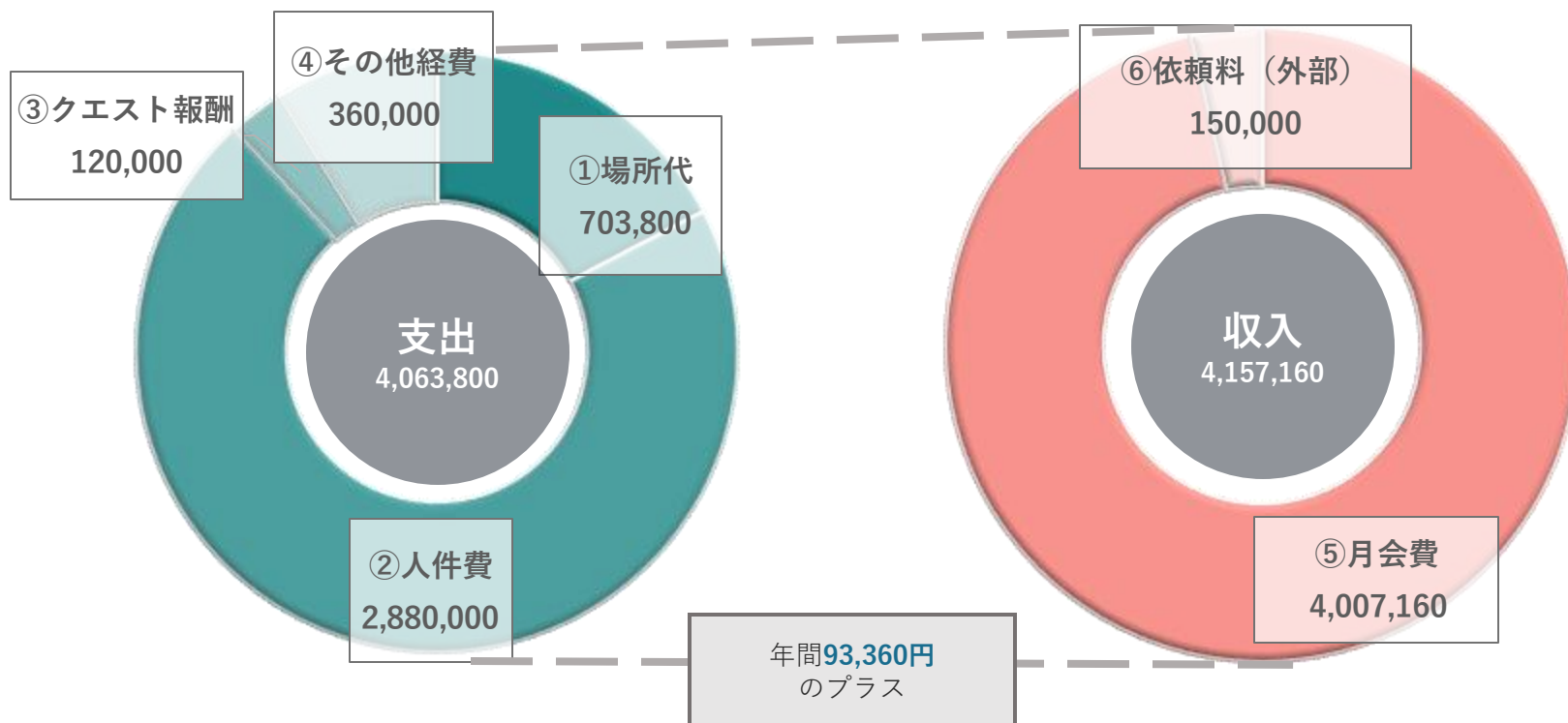
－ つべつギルドを実際に利用してみたときの具体例3つ－



7. 政策提案 -具体例-

1年あたりの事業予算は以下の通りである

- 支出項目には、①公民館の場所代、②ギルドを運営するための人件費、③ポイント達成上位者際に付与する報酬、④光熱費や備品などの経費があり、年間支出は4,063,800円になる
 - 収入項目には、⑤月会費と⑥外部の組織からの依頼料があり、合計収入は4,157,160円
- ⇒年間93,360円の黒字が期待できる



7. 政策提案 - 予算詳細 -

支出				収入	
場所代（公民館を想定）	人件費	クエスト報酬	その他経費※4	月会費	依頼料（外部）
$\langle \text{夏季} \rangle 510\text{円}^{\ast 1}$ $\times 8\text{時間} \times 20\text{日}$ $\times 6\text{ヶ月} \times 62.5\%^{\ast 2}$ $\langle \text{冬季} \rangle 510\text{円}$ $\times 8\text{時間} \times 20\text{日}$ $\times 6\text{ヶ月} \times 81.25\%^{\ast 3}$	$1,500\text{円} \times 8\text{時間}$ $\times 20\text{日} \times 12\text{か月}$	$10,000\text{円}$ $\times 12\text{か月}$	$30,000\text{円}$ $\times 12\text{か月}$	$\langle \text{年少} \rangle 365\text{人}$ $\times 20.4\%^{\ast 5}$ $\times 500\text{円} \times 12\text{か月}$ $\langle \text{高齢} \rangle 1978\text{人}$ $\times 30\%$ $\times 500\text{円} \times 12\text{か月}$	$50,000 \times 3\text{回}$
306,000 + 397,800	2,880,000	120,000	360,000	446,760 + 3,560,400	150,000
4,063,800				4,157,160	

※1 津別町 中央公民館 談話室の1時間当たり利用料

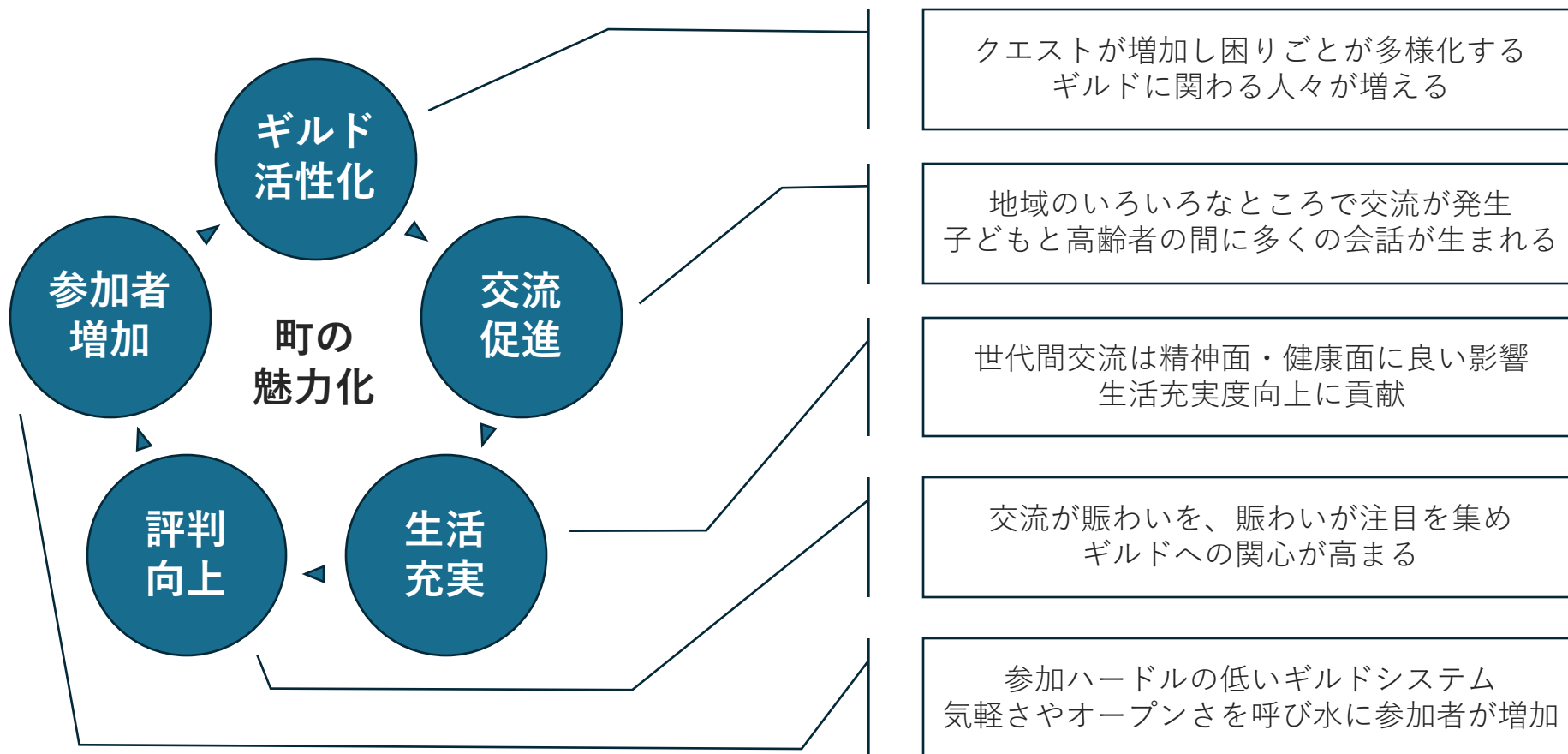
※2 当該施設の1か月定期使用割引

※3 上記割引率と暖房実施期間の割増率を考慮

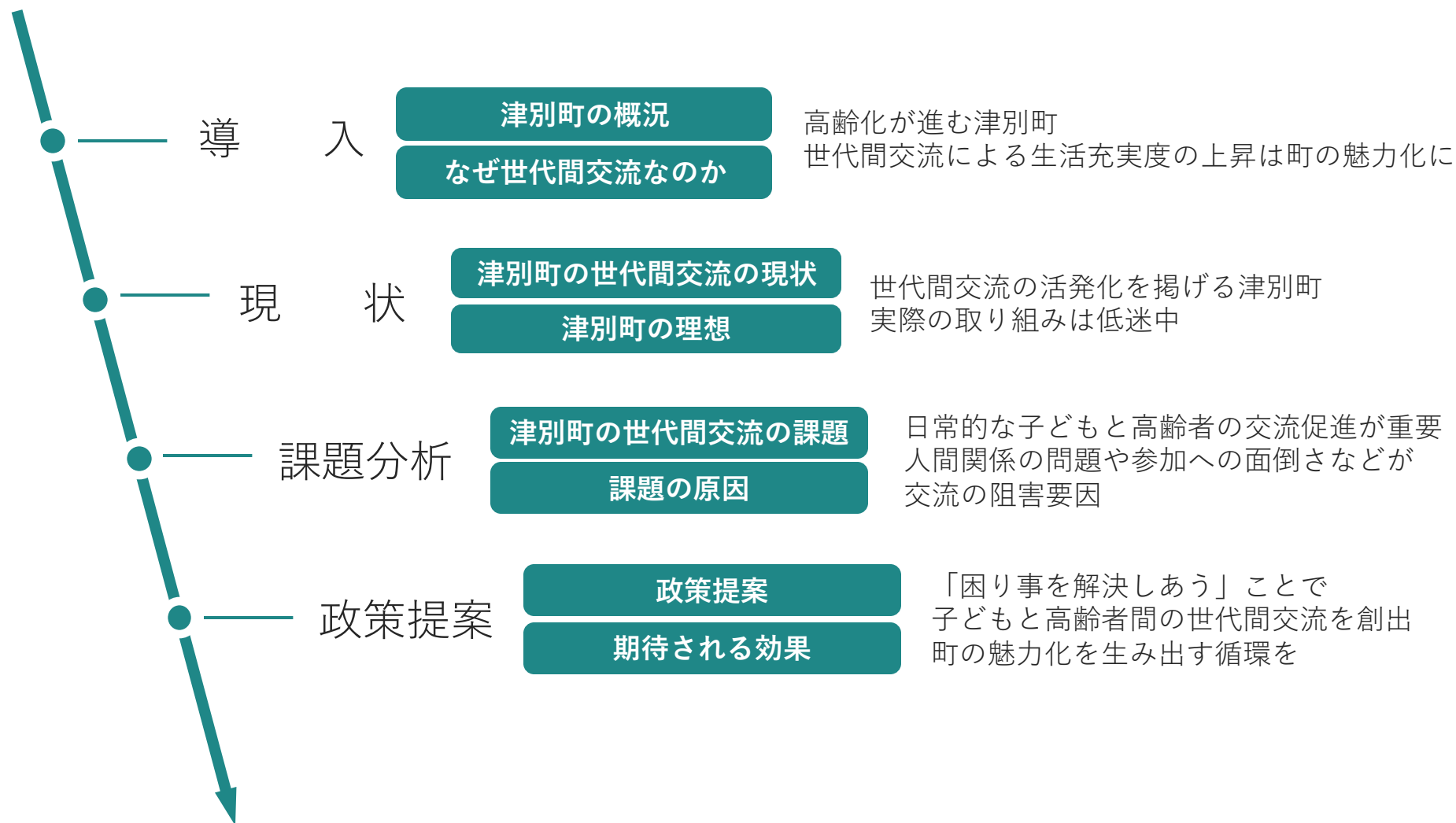
※4 光熱費や備品にかかる経費を1か月あたり3万円と仮定

※5 厚生労働省（2019）、文部科学省（2019）を基に全国の小学生の放課後児童クラブの利用率を算出

8. 期待される効果



9. まとめ



参考文献

- ・ 糸井和佳・亀井智子・田高悦子・梶井文子・山本由子・廣瀬清人・菊田文夫（2012） 「地域における高齢者と子どもの世代間交流プログラムに関する効果的な介入と効果－文献レビュー－」 『日本地域看護学会誌』 第15巻第1号、pp.33-43
- ・ 上村眞生・岡花祈一郎・若林紀乃・松井剛太・七木田敦（2007） 「世代間交流が幼児・高齢者に及ぼす影響に関する実証的研究」 『幼年教育研究年報』 第29巻、pp.65-71
- ・ 亀井智子・糸井和佳・梶井文子・川上千春・長谷川真澄・杉本知子（2010） 「都市部多世代交流型デイプログラム参加者の12か月間の効果に関する縦断的検証－Mixed methodsによる高齢者の心の健康と世代間交流の変化に焦点を当てて－」 『老年看護学』 第14巻第1号、pp.16-24
- ・ 厚生労働省（2019） 「令和元年（2019年）放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の実施状況（令和元年（2019年）5月1日現在）」 厚生労働省HP、2019年12月25日更新、2023年9月27日最終閲覧、https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000189556_00003.html]
- ・ 根本裕太・倉岡正高・野中久美子・田中元基・村山幸子・松永博子・安永正史・小林江里香・村山洋史・渡辺修一郎・稲葉陽二・藤原佳典（2018） 「若年層と高年層における世代内/世代間交流と精神的健康状態との関連」 『日本公衛誌』 第65巻第12号、pp.719-729
- ・ 津別町（2020） 『津別町第6次総合計画』
- ・ 津別町（2023a） 「少年教育」 津別町HP、2023年5月1日更新、2023年9月26日最終閲覧、https://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/kosodate_kyoiku/shakaikyoiku_shogaigakushu/2/1490.html]
- ・ 津別町（2023b） 「成人教育」 津別町HP、2023年7月25日更新、2023年9月26日最終閲覧、https://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/kosodate_kyoiku/shakaikyoiku_shogaigakushu/2/1492.html]
- ・ 津別町（2023c） 「青年教育」 津別町HP、2023年7月25日更新、2023年9月26日最終閲覧、https://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/kosodate_kyoiku/shakaikyoiku_shogaigakushu/2/1491.html]
- ・ 津別町（2023d） 「中央公民館」 津別町HP、2023年7月18日更新、2023年9月26日最終閲覧、<https://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/soshikikarasagasu/shogaigakushu/5/2/703.html>]
- ・ 内閣府（2021） 『令和3年度 高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する調査結果（全体版）』
- ・ 文部科学省（2019） 「学年別児童数」 『学校基本調査』 政府統計の総合窓口(e-Stat)、2019年12月25日更新、2023年9月27日最終閲覧、<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031893723&fileKind=0>